会議の概要(議事録)

会議の名称	（番号） １－１７	令和６年度　第２回墨田区環境審議会		
開催日時	令和６年１１月２１日（木）　１５：３０～１６：３０			
開催場所	墨田区庁舎１７階　第１委員会室			
出席者数	【委　員】赤尾健一（会長）、日置雅晴(副会長)、藤崎こうき、おまた雄一 伊藤あすか、染谷真央、澤田大輝、宇田川明、林家時蔵、横井貴広 (計 10 名) 【事務局】岩下資源環境部長、山中環境保全課長、菜原環境政策課長、柳すみだ清掃事務所長、環境保全課主査（石川、川瀬、髙比良）、環境保全課緑化推進担当係員（附柴）、環境政策課主査（松本、荒井）、担当係員（仲戸川） （以上 11 名）			
会議の公開（傍聴）	公開(傍聴できる)　部分公開(部分傍聴できる) 非公開(傍聴できない)		傍聴者数	０人
議題	１．第二次すみだ環境の共創プラン（中間改定）進捗状況評価（令和５年度実績）の報告 ２．（仮称）墨田区資源環境審議会の設置について ３．意見交換			
配付資料	１．第十期環境審議会委員名簿 ２．第二次すみだ環境の共創プラン（中間改定）進捗状況評価（令和５年度実績） ３．（仮称）墨田区資源環境審議会の設置について			
会議概要	１．挨拶 令和６年度第２回墨田区環境審議会の開催に際し事務局から挨拶があった。 ２．新委員の紹介 事務局から第十期新任委員である染谷委員の紹介を行った。 ３．資料の説明について 事務局から、資料２「第二次すみだ環境の共創プラン（中間改定）進捗状況評価（令和５年度実績）」、資料３「（仮称）墨田区資源環境審議会の設置について」の説明を行った。 ４．意見交換 （１）議題１について （おまた委員） 第二次すみだ環境の共創プラン（中間改定）進捗状況評価（令和５年度実績）の重点プロジェクト１について、再生可能エネルギー設備等の導入を墨田区でも助成している。東京都の方でも太陽光パネルや窓の断熱、遮熱塗装などの助成をしており、これらの対策は効果があり、エアコン等の節電が期待できる。東京都の方でも助成しているということを知らない方は多くいる。そのため、平均的な効果を公表していくことが重要であると思う。また、墨田区は今年度の助成金の予算に達してしまったが、来年度に向けて対策していくのかをお聞きしたい。			

	（山中課長） 遮熱塗装や二重窓などの効果については、ホームページ等で区民の方にわかりやすい形で公開していく。今年度の助成は、予算に達してしまい中断をしているが、今後の議会で補正予算を提案させてもらい、了承が得られれば助成を再開する。 （赤尾会長） エネルギー節約を通しての二酸化炭素の削減について、日本全体で見ても計画に向けて順調に進んでいると思うが、今後さらに削減していくには難しいと考える。削減するには、家庭及び事業者の協力が必要であると思うが、今後の見通しはどのようなものかお聞きしたい。 （山中課長） 墨田区内における二酸化炭素の排出量は、家庭部門・民生部門を合わせて、約６４％を占めている。中央区や千代田区等と比較して、墨田区は家庭部門の排出が多くなっているので、家庭での排出抑制が重要になってくる。墨田区では、エネファームや太陽光発電、蓄電池の助成をさせていただくとともに、省エネ対策をホームページ等で公開していく。 （赤尾会長） 基本目標３について、令和５年度実績の「地上部で６,４５７㎡の緑地が整備された」とあるが、例年的に見て数値的に大きいのか。 （山中課長） 例年より大きいというということはない。マンション等の集合住宅を３００㎡以上の土地で建設する場合には、敷地面積に対して１,０００㎡以下であれば５％、１,０００㎡から３,０００㎡の間は２．５％に面積に応じた割合を足した面積を緑化整備している。 （赤尾会長） そのようになると、緑被率が上がりにくい状況であると思うが、０．６（ｈａ）ずつ地上部で緑化が進むという認識でよいか。 （山中課長） 建物の建設が続く限り、増えていくと考えている。 （おまた委員） 来年、太陽光発電について大手企業の新築建物に対し義務化になるという話が上がっている。ソーラーパネルに関して有害物質が含まれていることやソーラーパネルをリユースするにあたり業者が足りないという課題があるが、墨田区はどのように考えているのか。また、墨田区はマンションが多く、ソーラーパネルの恩恵を受けられない方がいるがどのように考えているか。 （山中課長） 来年４月から、東京都でソーラーパネルの設置が義務化される。国が中心となりソーラーパネルのリサイクルを検討していると聞いている。区としては、リサイクルや処分についての方針を定めることは難しいので、東京都・国の動向を見ながら連携していきたい。 （赤尾会長） 温室効果ガスの排出抑制について、東京都全体で行っているので墨田区の中で行っ

	ている努力が見えにくい部分があると思う。その部分を他の区と議論する論点になると思う。 （伊藤委員） 墨田区では家庭部門の排出が多く、抑制していくとの話があったが、集合住宅に向けて、ガス給湯器の対策ができると考える。集合住宅は高効率の給湯器がコストの関係で設置できていない。設置できれば二酸化炭素を数十%削減できるので、推進を考えていただきたい。 （山中課長） 助成というのは難しいが、住宅の省エネについては環境学習ツール等もあるのでそのようなところで普及啓発していきたい。 （林家委員） 重点プロジェクト２のプラスチックごみ削減について、今年４月からプラスチック回収が始まったが、現状と現時点での問題点を教えていただきたい。 （柳所長） 実績について、目標値の７５％を達成しており、回収率が上がっている。課題について、廃プラスチックは軽いので風に飛ばされやすい。対策としては、ネットをかけることを検討している。この対策は、風防と同時に防鳥にもつながる。また、容器の汚れについては、軽く水で流すことをお願いしている。 （宇田川委員） 緑化問題について、緑の推進を担うサポーターの数が減少している。実際に緑を育成していくために、サポーターの人材育成が重要であると思う。その際に、墨田区には緑と花の学習園という緑の意識を育てる拠点があるが、緑と花の学習園の位置づけと今後の方向性について教えていただきたい。 （山中課長） 共創プランには緑と花の学習園については記載していないが、墨田区緑の基本計画には学習園の機能拡張について記載している。サポーターについては、人数の変動はないが高齢化が進んでいる。サポーターまではいかないが、サポーターに近い形で緑化推進する緑と花のまちづくり推進地域制度について、令和５年度・令和６年度で２件ずつ増えた。 （宇田川委員） 緑と花の学習園については、今後どのような方向で整備・拡大していくのか。 （山中課長） 緑と花の学習園は、開園から４０年以上経過しており、建物が老朽化している。その点を踏まえ機能を見直し、学習を体験できる植物園にしていきたい。そのため、今年度から千葉大学と協力して内容を検討している。 （２）議題２について （澤田委員） 墨田区廃棄物の減量及び処理に関する条例の７・８条削除とあるが、「一般廃棄物の減量等に関する事項を審議させる」ことについては、すみだ環境基本条例の方で新たに記載するので削除するということでよいか。 （菜原課長）

	その考えでよい。審議する場所が墨田区廃棄物の減量及び処理に関する条例で定められた墨田区廃棄物減量等推進審議会であったのが、すみだ環境基本条例で定める墨田区資源環境審議会に変更になる。 （澤田委員） 条例の内容のみを見て審議すると、欠落してしまうのでひもづけが必要である。 （赤尾会長） 新審議会の審議事項について、一般廃棄物の事項は循環社会の形成という大きなテーマであると思う。気候変動等の環境保全と循環社会の形成という２つの課題があるが、環境審議会と廃棄物減量等推進審議会を統合し１つの審議会で議論していくという理解が自然であると思う。そのように考えると、審議事項の書きぶりが限定的になっていると思うが、どのように考えているか。 （菜原課長） 審議事項の書きぶりが限定的という話について、環境の共創に関する基本的事項を広く捉えている。 （藤崎委員） 現在、環境審議会と廃棄物減量等推進審議会合わせて２９名で審議している。２つの審議会を統合して１つの審議会にすると２０名以内で審議することになるということだが、議論が浅くなってしまうのではないかという懸念がある。議論が浅くならないように、付属機関を増やすなど柔軟な対応を取っていただきたい。 （菜原課長） そのとおりである。２９名が２０名になってしまうということで、学識経験者や区民の方が限定的になってしまう懸念もある。一方、その点も含めながら、部内ワーキンググループにおいて最適な人数を検討したところ、やはり２０名程度が妥当であるという結論になった。今後、議論の内容によっては、審議会に部会を設けるなど対応を取りたい。 （藤崎委員） 本日の審議会で条例改正について議論した意見は、区議会へ報告するのか。 （菜原課長） 本日、議論した意見を検討して必要な意見を報告したい。 （赤尾会長） 以上をもちまして、本日の審議会を閉会とさせていただきたいと思います。お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。
所　管　課	環境政策課環境政策担当（内線５４７３）